

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2014 年 5 月

NO. 252

TOPICS

「再生エネルギーの活用に対するPRへの期待」

(公社)日本パブリックリレーションズ協会 監事 岩淵 昭子
MESSAGE P3

「広報PRアカデミー2014」

3次試験対応講座(2014年夏)受講受付を開始」

ATTENTION P4

「第15回PRプランナー資格認定検定試験」

1次試験受験予約申込は6月2日(月)から！」

ATTENTION P5

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <http://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F
電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人: 森 健

5月号 目次

5月～6月のスケジュール	——	1
MESSAGE(メッセージ)	「再生エネルギーの活用に対するPRへの期待」	—— 3
ATTENTION(お知らせ)	「広報PRアカデミー2014 「3次試験対応講座「(2014年夏)」の受講受付を開始」	—— 4
〃	「第15回PRプランナー資格認定検定1次試験受験予約申込は6月2日から！」	—— 5
BULLETIN(活動報告)	「広報PRアカデミー2014 「広報・PR基礎講座2014」を開講」	—— 6
〃	「PRプランナー資格認定制度 125名の2013年後期(第13回)PRプランナー誕生」	—— 7
〃	「特別国際セミナー開催報告」(会員限定)	—— 9
〃	「第42回親睦ゴルフ会開催報告」(会員限定)	—— 9
〃	「第10回広報活動研究会開催報告」(会員限定)	—— 10
〃	「第15回広報ゼミ開催報告」(会員限定)	—— 10
〃	「PRパーソンミーティング2014を開催報告」(会員限定)	—— 10
VOICE of PR Planner	「社外と社内の発信、バランスを大切に、どちらも発展させたい」	—— 11
PR TREND(PRトレンド(関西))	「関西の風:大人になって楽しむクレパス」	—— 13
協会掲載記事	「PRSJ in Media 5月」	—— 15
PLAZA(会員便り)	「(株)タカオ・アソシエイツ 高雄宏政氏が「広報が会社を強くする広報実務のAtoZ」を上梓」	—— 16
〃	「(株)ビデオリサーチが新雑誌「Synapse」を創刊」	—— 18
〃	「東京経済大学 駒橋恵子氏が参画の「コミュニケーション学がわかるブックガイド」発刊」	—— 19
掲示板	「経済産業省からのご協力とお願い」	—— 20

5月～6月スケジュール

PRプランナー資格認定 検定 2 次試験	日 時 : 5 月 18 日(日) 10:30～16:00 会 場 : 学習院大学 目白キャンパス西 5 号館(東京) 毎日インテシオ(大阪) AQUA博多(福岡)
第 156 回定例研究会	日 時 : 5 月 21 日(水) 12:00～14:00 会 場 : アカデミーヒルズ 49 講 師 : テレビ東京 ニュースセンター 副センター長 大信田雅二氏 テーマ : 「『WBS』のリニューアルがめざす経済報道の方向性 ～『自分につながる経済ニュース』のこれから～」
広報 PR アカデミー2014 「PRプランナー3 次試験対応講座」	日 時 : 6 月 5 日(木)、12 日(木)、19 日(木)、26 日(木) 7 月 2 日(水)、8 日(火) いずれも 19:00～21:00 会 場 : 六 本 木 アカデミーヒルズ 49
なでしこカウンスル	日 時 : 6 月 13 日(金) 18:30～ 会 場 : 読売新聞東京本社 12F個室 講 師 : 読売新聞東京本社 編集委員 永峰好美氏

予 告

通 常 総 会 開 催

日 時 : 2014 年 6 月 4 日 (水)
通常総会 17:00～／ 懇親パーティ 18:30～

会 場 : グランドハイアット東京 2F
通常総会 「アニス」
懇親パーティ 「バジル」

5月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会（5月度）	日 時	： 5 月 14 日(水)	12:00～14:00
	場 所	： 六本木ヒルズクラブ	
幹部会（経営会議）（5月度）	日 時	： 5 月 14 日(水)	10:30～11:45
	場 所	： 協会会議室	
教育委員会（5月度）	日 時	： 5 月 22 日(木)	12:00～14:00
	場 所	： 協会会議室	
資格委員会（5月度）	日 時	： 5 月 22 日(木)	17:00～18:30
	場 所	： 協会会議室	
交流委員会（5月度）	日 時	： 5 月 15 日(木)	12:00～14:00
	場 所	： 協会会議室	
広報委員会（5月度）	日 時	： 5 月 7 日(水)	12:00～14:00
	場 所	： 協会会議室	
企業部会幹事会（5月度）	日 時	： 5 月 8 日(木)	17:00～18:00
	場 所	： 協会会議室	
PR業部会幹事会（5月度）	日 時	： 5 月 16 日(金)	16:00～18:00
	場 所	： 協会会議室	

再生エネルギーの活用に対するPRへの期待

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
監事 岩渕 昭子

2011年6月に、ISOによるエネルギーマネジメント規格が、ISO50001として発行されている。その約3カ月前に起きた東日本大震災と福島原発事故の後には、「コミュニティパワー」という言葉をよく耳にするようになった。ISO50001は、すべての組織を対象としている。

当時の私は「コミュニティパワー」という言葉を聞いても、実感が湧かなかった。そこで、昨年（2013年）9月5日～14日、福島大学の清水修二先生を団長とする「住民主体のエネルギー活用を学ぶドイツ・デンマーク調査」に参加した。

その調査に参加した後、日本の現状を調べてみたら、意外と知らないことが多かった。日本で再生エネルギーの活用に取り組む組織では、PRの人材や財政面の脆弱性から、PR不足となっているのではないかと懸念される。近い将来において、この協会のPRアワードグランプリに、何処かの組織が応募されることを期待したい。

さて、この調査の初日に行った南ドイツのフライアムト村では、農家が複数の再生エネルギー事業に取り組み、年収が1千万円を超えているという。日本農業の再生のヒントになると思った。私が驚いたのは、大規模な風力発電や太陽光発電への投資だけではなく、身近なところから実践されていることであった。たとえば、乳牛から搾った約38℃の牛乳を4℃に下げる熱交換を活用して、自宅のお風呂や温水として活用している。その小さな機械装置は、日本円で約20万円程度である。木材チップにしても、地域の木こりが小さくしているレベルで、木材チップ工場から提供されている訳でもない。

また、デンマークでは、風力発電に対して、申請窓口の一本化や農地の利用制限、風が一定以上吹かなかった場合の保険制度など、コミュニティ（地域）や投資家（農家や地域住民を含む）に対する配慮がなされていると感じた。

日本とデンマークの場合、1973年の第一次オイルショック当時のエネルギー自給率は大差なかった。デンマークのエネルギー自給率は、1972年は2%だったが、2011年には123%となり、エネルギー輸入国から輸出国へと転じている。食料とエネルギーの自給は、国家として重要な課題であろう。調査を通じて、教育とPRの重要性を再認識させられた。

6年後の2020年東京オリンピックに向けて、日本のエネルギーに対する考え方がどのように具現化されるのか、個人的には興味津々である。新設する施設でも改修する施設でも、是非、再生エネルギーを考慮した省エネルギー施設であって欲しいと思っている。

本協会員の方々が、何らかの役割を演じられる機会があることを願っている。

広報PRアカデミー2014

「3次試験対応コース（2014 夏期）」の受講受付を開始

六本木アカデミーヒルズにて6月5日より開講

教 育 委 員 会

協会では7月下旬実施の第14回3次試験受験者を主な対象とする「PRプランナー3次試験対応コース」を、今年も6月5日（木）より6回にわたって六本木アカデミーヒルズにて開講いたします。



本コースでは、PRプランナー認定3次試験の内容となるニュースリリースの作成やマーケティングおよびコーポレート分野における広報・PR計画の立案法の3分野について、6回の講義とグループワークを通じて集中的に習得します。各分野について、それぞれ2週にわたる講義とグループワークで学び、合格に必要な実力を養成します。本コースは毎年、夏期と冬期に開催しており、受講者は高い合格率を誇っています。

また、インターネットを通じて講座の動画データを何度も視聴可能なWeb受講サービス（視聴期間限定）も提供いたします。遠隔地に居住される方、業務のため毎回の出席が難しい方も、インターネットを介した動画配信による履修が可能となります。

今夏の講座は下記要領にて開講します。受講受付は協会Webサイト「広報PRアカデミー セミナー／イベント」のページで行います。PRプランナーをめざす多くの方々の受講をお待ちします。

「広報PRアカデミー セミナー／イベント」ページ URL <http://event.prsj.or.jp/>

■PRプランナー認定3次試験対応コース（2014 夏期）の概要

日 程	講座テーマ	講 座 概 要	講 師	受講料	申込締切
6月5日 （木）・ 6月12日 （木）	「合格する ニュースリ リースの作 成法」	課題に基づくニュースリ リースの作成に必要な知識、 スキルを講義と演習で学ぶ	田代 順 氏 （株）ミラ・ソル/ 代表取締役	会場受講+Web 受講 日本PR協会会員社 員 32,400 円 PRプランナー（准・ 補）取得者 43,200 円 一般 48,600 円	会場受講+ Web 視聴 6月3日（火） 15:00 まで
6月19日 （木）・ 6月26日 （木）	「広報・PR 企画の立案 作成（マー ケティング 分野）」	マーケティング課題に基づ く広報・PR計画の企画立 案に必要な知識、スキルを 講義と演習を通じて学ぶ	赤坂幸正 氏 （株）インテグレート/ チーフプランナー	Web 受講のみ 会員・PRプラン ナー・一般とも 32,400 円	Web 受講は 開講後も受 付ます。
7月2日 （水）・ 7月8日 （火）	「広報・PR 企画の立案 作成（コー ポレート分 野）」	コーポレート課題に基づく 広報・PR計画の企画立案 に必要な知識、スキルを講 義と演習を通じて学ぶ	許 光英 氏 （株）電通パブリック リレーションズ/ プロジェクトマネー ジャー		

※「日本PR協会会員社員」の料金は、法人正会員の会社・団体等の社員・職員、もしくは個人正会員・個人賛助会員ご本人様のみが対象となります。

第 15 回「PRプランナー資格認定検定試験」 1 次試験受験予約申込は 6 月 2 日（月）から！ 東京・大阪・名古屋・札幌で実施！

資 格 委 員 会

第 15 回 P R プランナー資格認定検定試験 1 次試験（実施：8 月 24 日（日））では、東京・大阪以外での各地域での開催希望の声に応え、北海道の他に 2 回目となる名古屋でも、1 次試験を実施します。

日本 P R 協会が認定する「P R プランナー資格認定制度」は、広報・P R の業務に求められる専門的な知識やスキル、職能意識等を検定し資格として認定する、公益法人としてわが国唯一の資格制度です。検定試験は第 1 次から第 3 次にわたり、さらに面接試験を経ることにより、広報・P R に関する高い専門能力の保有を認定する「P R プランナー」資格を取得することができます。本制度は 2007 年より発足しすでに 13 回の試験を実施、難関を突破し資格を取得した 1,659 名の P R プランナーが一般企業、P R 会社、政府機関や自治体等で活躍しています。

受験予約申込は、6 月 2 日（月）からとなっておりますが、定員に達し次第締め切らせていただきますので、予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

P R プランナー資格認定制度／1 次試験 実施概要

試験会場	東京会場	大阪会場	名古屋会場	札幌会場
会 場 名 ・ 住 所	未定	毎日インテシオ	A P 名古屋	北海道建設会館
試験会場アクセス	未定	J R 大阪駅から西梅田地下歩行者道を通り徒歩約 15 分	「名古屋駅」より徒歩約 5 分	J R 「札幌駅」より徒歩約 3 分
試 験 日	2014 年 8 月 24 日（日）			
募 集 定 員	400 名	80 名	80 名 *	80 名 *
受験応募・申込方法	資格制度 W e b サイトで受験予約を行った上で申込書を郵送			
受 験 予 約 期 間	2014 年 6 月 2 日（月）～2014 年 7 月 18 日（金）			
申 込 書 送 付 期 間	2014 年 6 月 4 日（火）～2014 年 7 月 25 日（金）＜必着＞			
合 否 通 知 送 付	2014 年 9 月 5 日（金）発送			

* 最少実施人数あり。最少実施人数に満たない場合は、受験料のご返金、もしくは東京・大阪いずれかの会場に変更となりますので、予めご了承ください。

今後の試験実施スケジュール（予定）

第 15 回 2 次試験試験日：2014 年 11 月 16 日（日）

試験会場：東京・大阪・名古屋

第 15 回 3 次試験試験日：2015 年 1 月 24 日（土）

試験会場：東京のみ



試験の詳細は、[P R プランナー資格制度 W e b サイト](#)をご参照ください。

広報PRアカデミー2014

「広報・PR基礎講座 2014」を開講**4月22日～24日、東京・港区の「AP浜松町」にて****教 育 委 員 会**

当協会では、4月22日から24日の3日間、今年度の「広報PRアカデミー」の幕開けとなる「広報・PR基礎講座 2014」を東京・港区の「AP浜松町」にて開講しました。本講座には、事業会社の広報・PR部門やPR会社、各種団体等に勤務する受講者多数が、3日間にわたって受講しています。

「広報・PR基礎講座 2014」は、広報・PRの実務遂行に必要な基本的な概念や考え方、知識等の習得を目的とする実用的な研修講座です。パブリックリレーションズ、インターナル・コミュニケーションズ、マーケティング及びブランド、マスメディアやソーシャルメディアなど様々な内容について講義を通じて学ぶとともに、ニュースリリースの作成やメディアリレーションズに関するグループワークをとおして業務に必要なスキルを身につけることができます。今回は新たにクライシス・コミュニケーションに関する講座を新設し、ベテラン講師の指導もとにのべ12講座を開講しました。

講座には連日50名を上回る受講者が企業や業界の枠をこえて参加し、グループワークや名刺交換を通じて交流を深めました。初日こそ緊張に包まれた講座も2日目、3日目と進むにつれ活発なコミュニケーションにより雰囲気も和み、最後は親しげに会話を交わす受講者の姿が印象的でした。

今後、本講座に参加した多数の広報・PRパーソンが、それぞれの職場において知識やスキルを深め、活躍することが期待されます。



「PRプランナー資格認定制度」

125名の2013年度後期(第13回)PRプランナー誕生

PRプランナーは累計1,659名に!

今年1月に実施された第13回PRプランナー資格検定3次試験の合格者132名のうち125名が、3月に行われた書類審査を経て、PRプランナーの資格を取得されました。

ここに、長期間にわたるご奮闘に敬意と祝意を表してご氏名を公表させていただきますとともに、今後のさらなるご研鑽とご活躍を期待いたします。

2013年度後期(第13回)PRSJ認定PRプランナー

(50音順/敬称略)

◇個人名、所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

新井 香織 (有限責任監査法人トーマツ)	池田 周平 (日本放送協会)
石河 景介 (㈱電通テック)	泉 真澄 (森ビル㈱)
今川 ゆかり (㈱アイプラネット)	岩城 廣明 (㈱エム・シー・コミュニケーションズ)
岩澤 康一 (㈱arex)	宇田 文顕 (SCSK㈱)
海川 佳子 (㈱エイブル&パートナーズ)	大野 真之介 (宗教法人世界基督教統一神霊協会)
小野 好美 (横河レンタ・リース㈱)	甲斐 崇 (㈱アサツー ディ・ケイ)
神田 将司 (文部科学省)	木下 龍太 (一般財団法人沖縄美ら島財団)
小島 春生 (㈱読売広告社)	小松 裕介 (ソーシャル・エコロジープロジェクト㈱)
古明地 広孝 (菓樹㈱)	近藤 千裕 (㈱バンダイ)
齊藤 明日夏 (エイベックス・グループ・ホールディングス㈱)	
坂井 美也 (㈱ダスキン)	坂本 真一 (㈱シティコミュニケーションズ)
佐々木 良司 (Natural Art 有限会社)	佐瀬 香織 (共同ピーアール㈱)
定松 征四郎 (公共シー・アール・イー㈱)	佐藤 直樹 (㈱大和総研)
佐藤 裕志 (㈱スパイスコミュニケーションズ)	澤口 美弥 (ひかり味噌㈱)
杉浦 史香 (医療法人社団プラタナスイック丸の内・表参道)	
杉山 瑞代 (NPO法人かものはしプロジェクト)	鈴木 靖夫 (リコージャパン㈱)
関口 嶺 (㈱電通)	高崎 朋子 (㈱アゲハスプリングス)
棚瀬 未有 (㈱井之上パブリックリレーションズ)	田辺 真貴 (朝日印刷工業㈱)
玉上 陽一 (住友林業㈱)	田村 亮子 (㈱インサイト)
土屋 剛 (三菱自動車工業㈱)	土屋 慈弘 (独立行政法人産業技術総合研究所)
仲埜 涼子 (㈱ラブレ)	根本 文彦 (陸上自衛隊)
福園 昭宏 (全国農業協同組合中央会)	藤岡 福資郎 (㈱カンキョーアイ)
藤野 加奈 (㈱電通パブリックリレーションズ)	前三盛 隆一 (社会福祉法人恩賜財団済生会)
増子 慶太 (㈱サニーサイドアップ)	松井 啓 (㈱読売広告社)
三田村 有 (㈱ベネッセホールディングス)	三井 翔太 (東武鉄道㈱)
村上 智哉 (㈱サード)	森 敬子 (パナソニック㈱エコソリューションズ社)
山岸 祐樹	山口 美沙紀 (㈱伊予銀行)
山崎 深雪 (江崎グリコ㈱)	山田 佳那 (㈱インテグレート)
山本 祥二 (㈱ニュートンズアイ)	由井 紀久子 (京都外国語大学)
吉田 和奈 (㈱VSN)	米田 立子 (農林水産省)

◇個人名、所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

赤木 勝正（P R 関連会社）	有川 真理子（各種団体）
大垣 弥生（自治体・行政機関）	大瀧 真澄（P R 関連会社）
大屋 亜希子（各種団体）	加藤 瑛文（一般企業(広報・P R 関連部署)）
小池 愛（教育機関）	小林 純子（一般企業(広報・P R 関連部署)）
柴田 亜里沙（一般企業(広報・P R 関連部署)）	津野 洋美（一般企業(広報・P R 関連部署)）
成瀬 裕美子（P R 関連会社）	根本 祥平（一般企業(その他の部署)）
野口 由美子（自治体・行政機関）	藤井 優子（教育機関）
保坂 明（一般企業(広報・P R 関連部署)）	丸山 敬子（各種団体）
宮崎 裕彰（一般企業(広報・P R 関連部署)）	森本 浩司（一般企業(広報・P R 関連部署)）
山口 詩織（一般企業(広報・P R 関連部署)）	

◇所属団体・企業名で掲載了承をいただきました方

(株)アドバンテスト…男性 1 名	(株)井之上パブリックリレーションズ…男性 1 名
N E C…女性 1 名	エム・エム・エス・コミュニケーションズ(株)…女性 1 名
(株)エムティーアイ…女性 1 名	(株)オズマピーアール…男性 1 名
(株)小田急エージェンシー…男性 1 名	共同ピーアール(株)…男性 1 名
京王電鉄(株)…男性 1 名	J B C C ホールディングス(株)…女性 2 名
静岡県庁…男性 1 名	(株)大広…男性 1 名
大日本印刷(株)…男性 1 名	
ダブリュー・エンド・ジーパブリックリレーションズ…女性 1 名	
東芝メディカルシステムズ(株)…男性 1 名	(株)日本経済社…女性 1 名
(株)P R T I M E S…女性 1 名	広島県庁…男性 1 名
(株)読売広告社…男性 1 名	

◇所属団体・企業種別で掲載了承をいただきました方

P R 関連会社…女性 3 名
 一般企業(広報・P R 関連部署)…男性 1 名 女性 4 名
 一般企業（その他の部署）…女性 1 名
 各種団体…男性 1 名

※上記 P R プランナーの皆様には、事前に掲載の承諾を得ております。

会 員 限 定

特別国際セミナー開催報告 「ウォール・ストリート・ジャーナルで読む 世界のニュース」

交 流 委 員 会

「ウォール・ストリート・ジャーナル (WSJ)」日本版の小野由美子編集長の講演を4月15日(火)六本木アカデミーヒルズ 49F「カンファレンスルーム 1+2」で実施しました。参加者は57名。東京支局長なども含め、日本での在職が長いこともあり、日本人の視点に立った編集など丁寧にお話いただきました。



第42回親睦ゴルフ会 開催

(株)スパイスコミュニケーションズ 大石哲也氏が優勝 通算優勝回数4回は新記録！

交 流 委 員 会



4月24日、「レインボーカントリー倶楽部」(神奈川県足柄上郡中井町)にて、交流委員会主催の「第42回親睦ゴルフ会」が会員相互の交流と親睦を目的として開催されました。

ゴルフ日和には最高の天候となり、9時半より4組13名が順にスタートしました。

会 員 限 定

第 10 回「広報活動研究会」(4 月 9 日)開催報告 キッコーマン株式会社 訪問

企 業 部 会

企業部会では、企業施設によるコーポレートコミュニケーションを体感していただき、会員企業の広報活動（機能、組織、運営体制など）の実際を学ぶことを目的に「広報活動研究会」を開催しています。第 10 回 広報活動研究会では、2014 年 4 月 9 日（水）、キッコーマン(株)野田工場を訪問しました。参加企業 14 社 18 名で、年間約 10 万人が訪れるという野田工場に併設されている見学施設「もの知りしょうゆ館」を訪れ、しょうゆづくりの歴史を学びつつ実際にしょうゆが作られている現場の見学からしょうゆづくりの体験までさせていただきました。



第 15 回「広報ゼミ」(3 月 7 日)開催報告 危機管理広報

企 業 部 会

広報ゼミでは、毎回各企業の広報活動の中で課題となるテーマを選び、情報交換と課題共有を行っています。第 15 回「広報ゼミ」は 2014 年 3 月 7 日（金）(株)ミツカングループ本社にて、「危機管理広報」をテーマに開催しました。参加者は 22 名でした。

「PRパーソンミーティング 2014」を開催 PR業部会総会に 52 名が参加

P R 業 部 会

3 月 19 日（水）、(株)アサツー ディ・ケイ 11F ラウンジにおいて、「PR業部会総会－PRパーソンミーティング 2014」が開催されました。今回は中堅PRパーソンの交流の場としても機能するように参加者募集に工夫をおこない、52 名の部会メンバーにお集まりいただきました。

「フロントランナーに聞く～これからのPRはどうなる？」と題して、(株)博報堂ケトル 嶋浩一郎氏と(株)電通パブリックリレーションズ 井口 理氏によるトークセッションを開催。カンヌ広告祭のPR部門審査員を務め、国内外の最新PR事情に詳しいお2人に「これからのPRを考える15の質問」にお答えいただきながら、示唆に富むご意見をいただきました。

社外と社内の発信、バランスを大切に、どちらも発展させたい

日立化成株式会社
磯田真理子

（はじめに）

日立化成株式会社で広報を担当しております磯田と申します。株式会社イクスピアリの鈴木さんよりバトンを受け取りました。PRプランナーを取得し一番の実りは、PRプランナーの同期の方々を始め、同じ職種の方々とのつながりが得られたことだと感じております。

（自己紹介と受験のきっかけ）

当社は、化学メーカーということで、エレクトロニクス製品に使われる材料や、自動車部品、蓄電デバイス、ライフサイエンスと、幅広い分野で材料や部品を提供しております。

私は3年前に中途入社し、現在の会社で3年間広報の仕事をしています。PRプランナー取得のきっかけですが、日常業務をコツコツこなすだけでは、広報の全体像や目ざすべき姿、求められるスキルなどがはっきりつかめず、一度、体系的に勉強してみようと思ったからです。3次試験では一度不合格になりましたが、そのおかげで次は落とせないと覚悟を決め、協会の主催するセミナーに参加し、前線でご活躍の熱意のある先生方から試験対策のみならず最近の広報手法のトレンドを学ぶことができ、また異業種で広報に従事される皆さんと交流することができました。

（現在の仕事について）

私は、メディア広報と社内広報の両方を担当しています。バランスは5:5です。（あくまでも理想で、ニュースリリースが集中している時、社内報の校了が迫っている時など、このバランスが崩れることは多々あります……）

（社内広報）

今回は、社内広報の活動について書かせていただきます。当社は、2012年3月まで、日立化成（株）の社員（約5,000名）のみに配布する社内報を配布していました。しかし、当社の経営は連結経営。グループの連結売上高の4割強は海外向け。海外の販売会社や製造会社が今後もますます大きな役割を担っていきます。社内コミュニケーションもこの経営の実態に合わせ、グループ会社全社員に情報発信をしていかななくてはならない、というトップの考えのもと、2012年4月より、国内・海外約17,000名に配布するグループ報にリニューアルしました。言語は和・英・中（簡体語・繁体語）。

このリニューアルで、私を含め、広報担当者の考え方・業務の進め方は大きく変わりました。特集、連載の企画は全てグローバルです。例えば会社の取り組みを特集で紹介する場合、「この施策の対象は国内の社員だけ？ それではNG」「国内では取り組んでいるけれど、海外への展開はいつ？」。そんなクエスチョンが常に頭に浮かびます。

また、日本ではオモシロイと思えるニュースがあっても、海外の人が理解できなければ載せられません。先行している他社の例を知りたくて、教えを請いに何社にも足を運びました。（皆さん本当に親切に、惜しみなく知恵を分けてくださいます。）

グループ会社紹介という企画のために、実際に国内・海外の子会社に飛びました。実際に現地の社員達と話すのは本当に新鮮で楽しく、新たな発見が幾つもあります。（自分で記事を書かなければいけないと思うと、英語の勉強も危機感にかられてやるようになりました。）

こういった経験が、メディア広報にも生きてきます。記者さんに新製品や製造プロセスについて説明する時、今後の会社の方向性を説明する時、頭の中に実際に作る場所を見てきた製品や会ってきた社員の姿が浮かびます。グループ報作成の際に仕入れた情報がヒントとなり、ニュースリリース等の社外発信に結びつくこともあります。社内への情報発信を担う位置にいるからこそ、良い社外発信ができると思えば、両方を担当し大変だと思うことはありますが、有り難いとも思います。

（今後の目標）

グループ報へのリニューアルから2年が経ち、新しい方法での編集方法も軌道に乗ってきました。今後は、PRプランナー取得の過程での学びも生かし、また改めて社外への情報発信の拡充に、取り組んでいきたいと思います。

次は、PRプランナーの同期生、川崎重工業株式会社で地球をまたにかけてご活躍中の坂本さんにバトンを渡したいと思います。どんなお話が伺えるのか、楽しみです。

<コラム 関西の風>

大人になって楽しむクレパス

株式会社サクラクレパス
第一マーケティング部営業企画課
服部 緑

大阪城公園が目の前に広がるJR森ノ宮駅を最寄りとし、サクラクレパス本社1階には企業美術館「サクラアートミュージアム」がある。大正・昭和期の日本を代表する画家が描いたクレパス画、油絵、水彩画、版画などの絵画コレクションを一般公開している。1921年（大正10年）の創業時よりクレパスや絵具といった描画材料の製造を通じて関わってきた画家たちによる絵画だ。



サクラアートミュージアム(内観)

1991年に創業70周年記念事業の一環として美術館を社屋に併設した。近代日本の絵画コレクション約900点のうち、特にクレパス画のコレクション約400点は大正以降から現在にいたる日本の美術画壇の主要画家を網羅している。

展覧会は「描画材料と絵画表現」にテーマをしばった企画展を年に6～8回開催している。5月13日～6月14日は特別企画展「現代アーティストクレパス画展」を開催し、新進気鋭の若い画家たちが制作したクレパス画を展示する。

<http://www.craypas.com/event/detail/520.php>

展覧会のテーマに沿って描画材料や技法に関する特別講習会や、実技講座「大人たちのクレパス画教室」などを併催している。この教室では、クレパスの正しい塗り方や扱い方といった基礎知識から、画面を揮発油をふくませた布でふき取ってぼかす表現や、パレットの上でこすって軟らかくしたクレパスを画面で盛り上げ、油絵のチューブからしぼり出したように描く応用的な技法まで、多角的な視点でクレパスを楽しむことができる。

「大人たちのクレパス画教室」で用いるのは、専門家向けのクレパスだ。

クレパスといえば、子どもの頃に使っていた方も多い、黄色い地に動植物等が描かれたパッケージのイメージがあるかもしれない。だが、専門家向けの「クレパス スペシャリスト」は最大 85 色の色数と高級な顔料を用い、画家や絵画を趣味とするアマチュアに向けて開発された、大人が使うクレパスだ。色数を多く用いることで、微妙な色合いを楽しめ、表現の幅を広げることができる。また、高品質な顔料を用いることで色あせせずに作品をいつまでも色鮮やかに保つ。



学童向けクレパス
「クレパス太巻」



専門家向けクレパス
「クレパス スペシャリスト」

「クレパスは子どものお絵かき道具」というイメージを捨て、是非、当社「サクラアートミュージアム」で表現豊かな素晴らしいクレパス画をご覧ください。きっと絵が描きたくなるのではないだろうか。

サクラアートミュージアム

(<http://www.craypas.com/info/museum/access.php>)

PRSJ in Media

●5月1日（木） 『月刊広報会議』 5月号

『月刊広報会議』5月号における連載コラムで、企業部会が開催した「第14回広報ゼミ」で話題となった「広報効果測定の課題」について掲載されました。

記事では、KPI設定の困難さをはじめとする広報効果測定における課題、広報活動における管理手法としてのPDCAサイクルの重要性について議論されたことが紹介されています。さらに広報活動の目標として、(1)プロセス目標、(2)アウトプット目標、(3)アウトカム目標に関する広報活動評価における位置付けや意義、広報と経営の一体化の必要性について確認され、記事の締めくくりとされました。

●4月1日（火） 『月刊ギフト』 4月号 （p.7、p.25）

『月刊ギフト』は、「法人ギフト」や「慣例ギフト」と呼ばれるジャンルを扱う専門誌です。4月号では、同誌を発行するビジネスガイド社が主催する「プレミアム・インセンティブショウ春2014」（4月9日～11日、池袋サンシャインシティ文化会館にて開催）において、当協会が「2013年度PRアワードグランプリ」の概要ならびに受賞作についてパネル出展したことが紹介されました。

■ 会員便り

**当協会法人正会員の㈱タカオ・アソシエイツ 代表取締役社長
高雄宏政氏が『広報が会社を強くする 広報実務のA to Z』を上梓。**

協会会員社である㈱タカオ・アソシエイツの高雄宏政代表が、単行本『広報が会社を強くする 広報実務のA to Z』（世界文化社刊、1,600 円／税別）を上梓しました。

本書は、高雄氏が『広報の仕掛人たち』（宣伝会議）で執筆した稿や、自社で作成した「広報の手引き」シリーズなどをもとに加筆補正したもので、第1章では、帝人、アサヒビール、全日本空輸、伊藤園、バンダイが経験した苦境の時期に、広報が企業イメージ回復のために取り組んださまざまな活動を紹介。

また、広報の経験が長く、経済広報センターの「企業広報経営者賞」などを受賞しているアサヒグループホールディングス㈱の泉谷直木社長兼CEOにインタビューし、広報の要諦を聞いています。この中で泉谷社長は、「広報に異動したらビッグチャンスだと思うべきだ」「広報は会社にとって極めて重要な役割を果たしている」「広報は経営に欠かせない重要な要素を全部担っている」「広報マインドがなかったら社長という仕事は勤まらない」などと語っています。

第2章以降は、実際に広報業務に従事している担当者のための実務編となっており、「広報の基礎知識」「広報ツールの役割」「広報効果の測定」「危機管理の手引き」を解説するとともに、事例、用語解説、ケーススタディ、チェックリストなども掲載。実践に役立つマニュアル本となっています。

広報に関する学術的または入門的な本は数多く出版されていますが、本書は、①わが国を代表する企業の広報活動を実例を挙げて紹介している、②経営トップへのインタビューなどを通して経営的な視点から広報を捉えている、③マニュアルとして使える広報や危機管理のノウハウが豊富に収録されている、④各種広報ツールについて最近の傾向や調査結果などを盛り込み紹介している、⑤広報担当者の最大の悩みである広報効果測定についてその方法を解説しているなど、広報活動に関する広範な情報を網羅し、新人からベテランまで広報担当者の実務をサポートする内容となっています。

<書籍データ>

書 名：広報が会社を強くする 広報実務のA to Z
著 者：高雄宏政
発行日：2014 年 4 月 25 日
発 行：世界文化社



定 価：1,600 円（税別）

内 容：＜第1章 苦境を救った広報＞

等身大の企業イメージを伝えるための広報戦略 —— 帝人

どん底にあった会社を蘇らせた広報力 —— アサヒビール

「広報は営業だ」に徹したリレーションズ活動 —— 全日本空輸

「お〜いお茶」を成長させたPRキャンペーン —— 伊藤園

信頼回復を成し遂げたトップ直轄の広報 —— バンダイ

広報が会社を強くする——泉谷直木（アサヒグループホールディングスCEO）

＜第2章 広報の基礎知識＞

広報とは何か／情報発信の方法／取材対応の原則／パブリシティの条件

記者発表の方法と流れ／ニュースリリースの書き方など

＜第3章 広報ツールの役割＞

広報ツールとは／ニュースレター／ファクトブック／社史・年史／企業出版

PR誌／CSRレポート／社内報／ホームページ／その他の広報ツールなど

＜第4章 広報効果の測定＞

報道分析とは／分析のための基準／事前の準備／活字媒体以外の調査

広報効果測定値の算出／その他の分析と報告事例／アウトプット調査など

＜第5章 危機管理の手引き＞

危機管理の3つの局面／緊急時の行動基本／緊急時取材対応の原則

緊急記者会見の心得／緊急時のトップの心得／各種ケーススタディなど

■ 会員便り

当協会個人正会員Aの㈱ビデオリサーチが、3月25日、
新雑誌『Synapse（シナプス）』を創刊しました。

協会会員である㈱ビデオリサーチは、3月25日、メディア・広告業界を応援し、活性化する一助となればという思いで、新雑誌『Synapse（シナプス）』を創刊いたしました。

この“Synapse”とは、人の脳にある神経細胞をつないでネットワークを作る接合装置のことです。雑誌という“場”や取材活動を通じて、業界の垣根を越えた新たなネットワークが生まれたり、既存のネットワークがさらに深化することを願って、そう名付けました。

具体的な誌面の構成としては、毎号第1特集でテレビに関するテーマを扱います。創刊号では、東京キー局の編成部長5人へのインタビュー記事を掲載しています。

第2特集では、「異業種に学ぶ」をテーマに、メディアや広告・マーケティング業界とは異なった世界で活躍する人を取り上げます。創刊号では作家エージェントのコルク代表・佐渡島 庸平氏、工業デザイナーの水戸岡鋭治氏、高級パン屋「ルセット」を取り上げました。

第3特集では、当社が昨年より始めた、“つくる”をテーマにした対話型セミナー『VRオープンラボ』との連動企画。実際にオープンラボにゲストスピーカーとしてお越しいただいた方々が誌面でも登場します。創刊号は、電通関西支社クリエイティブ局の山本良二局長の「CMづくり」を取り上げました。

他には、一般生活者の番組コンテンツへの嗜好性を解説する「コンテンツDNA」や、テレビ業界の第一線で活躍する人からの提言「The Great Message」（創刊号は田原総一郎氏）、ローカル局のある番組にフォーカスした「ローカル探訪」など様々な切り口から、メディア業界に関わる情報を発信してまいります。

また、2号目からは、テレビ番組制作会社で活躍する若手女子をクローズアップする新コーナーも作り、一層の内容充実を目指していきます。

日本PR協会加盟社の皆さまにとってもお役に立てるようなメディアに関する情報を発信していきたいと考えておりますので、ぜひ忌憚のないご意見をお願いいたします。

『Synapse』は季刊での発行（3月／6月／9月／12月発行）とし、当面は定期購読のみでの販売とさせていただきます。

『Synapse』の購読申込は、以下からお願いいたします。

<http://www.videor.co.jp/synapse/>

また、会員の皆様にはビデオリサーチから見本誌をお届けいたしますので、ご一読いただければ幸いです。

<書籍データ>

『Synapse』（年間定期購読（4号）3,800円／B5版ページ数：60ページ）

発行：ビデオリサーチ

編集協力：マガジンハウス

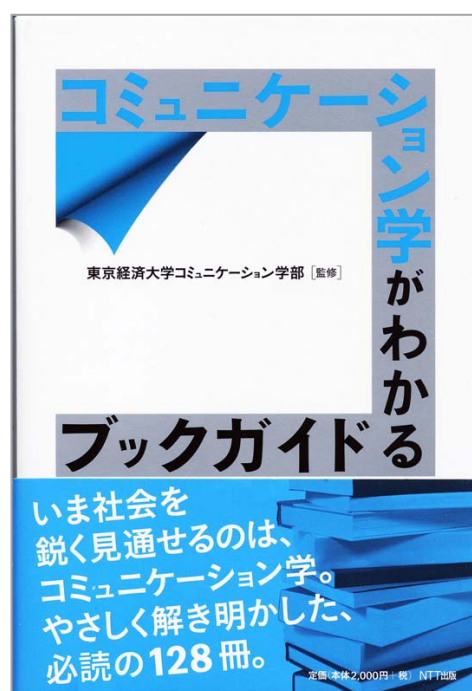


■ 会員便り

当協会個人正会員Bの駒橋恵子氏（東京経済大学 教授）が参画・推薦の書籍「コミュニケーション学がわかるブックガイド」（東京経済大学コミュニケーション学部 [監修]）が2月18日にNTT出版より発刊されました。

上記は、個人正会員Bで、PRプランナー資格制度・試験専門委員会委員長を務める駒橋恵子氏（東京経済大学 コミュニケーション学部 教授）ほか同学部の教授陣が総力をあけて編集・執筆した共著で、コミュニケーション学の広い領域を俯瞰的に把握できる貴重なブックガイドである。本書は、その広い領域の中から、社会学、ジャーナリズム、心理学、経営学、マーケティング、情報学、文化人類学、歴史学、言語学、哲学の各領域からコミュニケーションにかかわる古典から最新の著作、さらには入門書から専門書、基礎から応用までの文献128点を選んで、そのポイントを紹介している。

第1章「メディアコミュニケーションを学ぶ」は、インターネット、マスメディアなど「メディア」を介したコミュニケーションに関する本25点。第2章「企業コミュニケーションを学ぶ」は、広報・PR、広告、企業内外のコミュニケーションに関する本20点。第3章「グローバルコミュニケーションを学ぶ」は、異文化理解とコミュニケーションの多様性に関する本20点。第4章「コミュニケーションの原点を学ぶ」は、情報とコミュニケーションの意義にかかわる本25点。第5章「コミュニケーション学のいまを学ぶ」は、前半ではコミュニケーションにかかわる「いま」を扱った新書20点、後半では「学」としてのコミュニケーションに取り組むのに役立つテキスト類18点が、それぞれコンパクトに紹介されている。



広報・PRパーソンにとっては、第2章の「企業コミュニケーションを学ぶ」が身近であろう。『広報・広告・プロパガンダ』（津金澤聡廣ほか編）、『体系パブリック・リレーションズ』（S. M. カトリップほか）、『日本の広報・PR100年』（猪狩誠也編）など直接、業務にかかわるものから、広く組織やネットワークなど関連分野にかかわるものまで、いずれに目を通して、原典への適切なガイドが受けられる。そのほかの章も刺激的で貴重な示唆を受けられよう。

<書籍データ>

『コミュニケーション学がわかるブックガイド』（単行本（ソフトカバー）、226ページ）

著者：東京経済大学コミュニケーション学部

出版社：NTT出版

発行年月：2014年2月18日

価格：2,000円（税別）

経済産業省より下記連絡をいただきましたので、会員の皆さまにお知らせいたします。

「広告業界における下請適正取引等の推進のための ガイドライン」周知状況の共有について ご協力のお願い

経済産業省では、平成 19 年に策定（平成 22 年一部改訂）した「広告業界における下請適正取引等の推進のためのガイドライン」につきまして、消費税率引上げに先立ち、昨年施行された消費税転嫁対策特別措置法等を踏まえ、内容の一部改訂を行いました。

つきましては、改訂版のガイドライン本体を、添付ファイルにて送付させていただきます。

消費税転嫁対策に関しましては、各社経営層のみならず、調達現場の方々に十分ご理解いただくことが重要と考えております。

以下URLよりご確認いただき、会員の皆様におかれましては、周知いただきますようよろしくお願い申し上げます。

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/torihiki/shouhizeitenkataisaku.htm>

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/torihiki/2014/140313shitaukeGL.htm>

編集担当より

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・ご希望をお寄せください。
中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、
よろしくお願い致します。

広報委員会

Eメール mail@prsj.or.jp

F A X 03-5413-2147

※ 禁転載